

「宮城県のがん 2008-2017」の発行

佐藤優希<sup>1)</sup> 植野由佳<sup>1)</sup> 佐藤洋子<sup>1)</sup>  
 菊田早智子<sup>1)</sup> 目崎はる香<sup>1)</sup> 齋藤美登里<sup>1)</sup>  
 金村政輝<sup>1) 2)</sup>

<sup>1)</sup>宮城県立がんセンター 宮城県がん登録室

<sup>2)</sup>宮城県立がんセンター 研究所 がん疫学・予防研究部

【はじめに】

宮城県では、集計結果を、年次毎のリーフレットと5年毎の冊子にとりまとめ公表している。今回、10年分をまとめた「宮城県のがん 2008-2017」を発行したので報告する。

【これまでの経過と今回の編集方針】

宮城県における集計結果の公表は、1978年～1982年基礎数表編（1988年発行）から始まり、その後、現在の「宮城県のがん」の元になる罹患統計（1990年）、罹患統計（1994年）、宮城県のがん 1993-1997（2001年）、宮城県のがん 1998-2002（2007年）、宮城県のがん 2003-2007（2013年）と長い歴史をもつ。（図1）

今回、10年分の集計となったことから、集計表の作成は従来の方法を踏襲しつつも、読みやすさと見やすさを工夫し、編集することとした。

【集計結果】

男性は、上皮内がんを含まない場合、胃が最も多く、上皮内がんを含む場合、大腸が最も多かった。胃、大腸、肺、前立腺の4部位で全体の60%以上を占めており、大腸は増加し、胃は減少していた。（図1）女性は、乳房が最も多く、乳房、大腸、胃、子宮、肺の5部位で全体の60%以上を占めており、乳房と子宮が増加していた。（図2）

年齢調整罹患率と年齢調整死亡率は、男性、女性ともに全部位の罹患率は増加傾向にあり、死亡率は減少傾向にあった。（図3・図

4・図5・図6）

直近の5年間では、DCN6.6%、DCI6.6%、DCO5.8%と非常に高い精度であり、MVは約85%でその前の5年間よりも増加し、精度が向上していた。（図7）

【まとめ】

複数年による集計結果は、単年での集計結果だけでは伝えきれない情報を提供することが可能であり、今後も継続していきたい。しかし、5年毎の報告書の作成は、費用の獲得と手間が最大の課題であり、どのように継続できるのか模索しているところである。



図1. 罹患割合（2013-2017年の男性）



図2. 罹患割合（2013-2017年の女性）

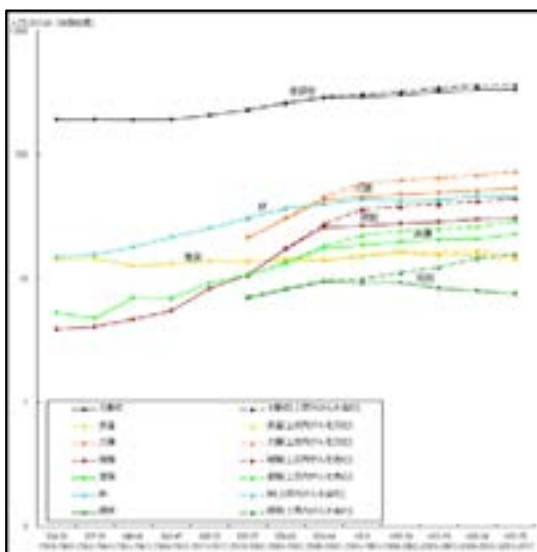


図 3. 年齢調整罹患率・男性  
 （上皮内がんを含む部位）

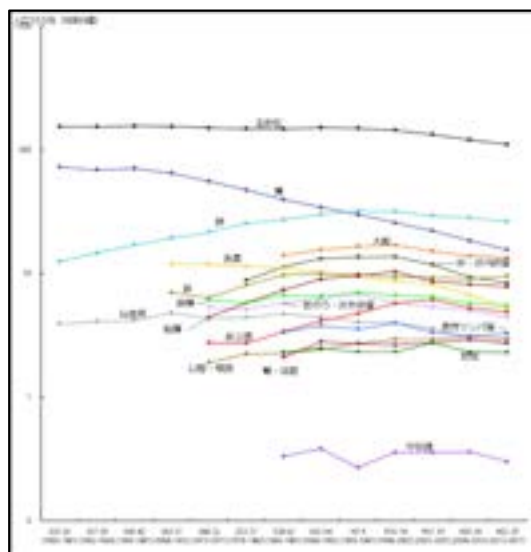


図 5. 年齢調整死亡率・男性

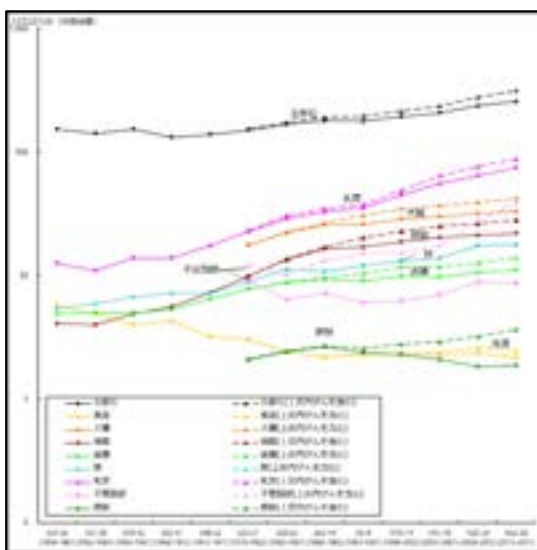


図 4. 年齢調整罹患率・女性  
 （上皮内がんを含む部位）

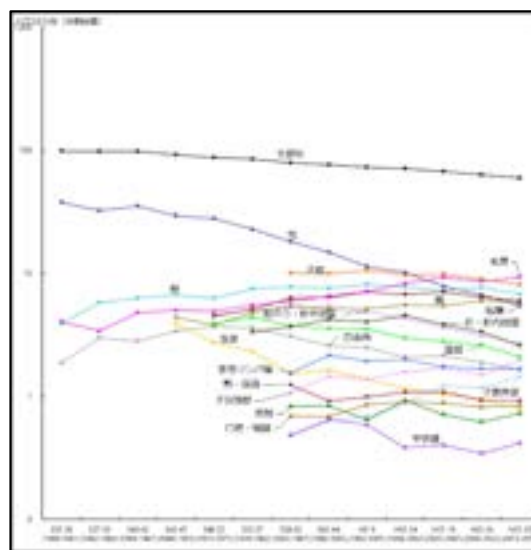


図 6. 年齢調整死亡率・女性

結果 ～登録の精度～

上皮内がんを	2008-2012			
	DCN	DCI	DCO	MV
含まない	10.7	-	10.6	80.9
含む	9.8	-	9.7	82.6
上皮内がんを	2013-2017			
	DCN	DCI	DCO	MV
含まない	6.6	6.6	5.8	84.1
含む	5.9	5.9	5.2	85.8

前の5年に比べて  
**精度向上**  
 している

図 7. 登録の精度